

在 学 時 の 事 な ど (※1)中第 37 回卒 浜 名 秀 顕 (※2)

世移り時かわり私達 37 回卒業生も懐しの母校を去って以来 30 幾星霜が過ぎました。往年の紅顔の美少年も、白髪頭に光る現在となりました。入学時は 150 名の多き若人も現在は 92 名の生存者を数えるのみとなり、若くして戦陣に倒れ、不幸にして病におかされ此の世を去られた同級生の方々のご冥福を心から祈って息みません。

さて、私達の在校中の行事の中で従来と異なった主な行事をあげて見よう。

- 一、運動会 例年は 9 月 23 日の秋分の日に行われていたが、春の 5 月 7 日の創立記念日に変更された。これは秋には雨が多くまた創立記念日の意義を深くする理由からであったようだ。
- 二、修学旅行 今までは 5 年生が実施しておったが、4 年生の 1 学期に変更されて、旅行先に吉野の旧蹟も含まれた。これは 5 年生は当時 1 週間の兵営生活があったためである。
- 三、服装 夏服は小倉のしもふり、冬服は黒の服で、帽子は白線が 1 年毎に 5 年生まで増えた。またカバンは肩かけであった。これも私達の学年が最後で次の学年からは、国防色になりランドセルにかわった。これも時世のもたらしたものであった。
- 四、学級編成 クラスは 3 クラス (甲乙丙) であり、4 年生からは一種 (就職組) 二種 (進学組) とに分かれて勉強するようになった。
- 五、優等生表彰 総合平均点が 90 点以上、操行甲の生徒を指したものであり、5 年生の卒業生のみが表彰されたのを、各学年ともに表彰を受ける事になった。
- 六、原級留置 平均点が 60 点以下は、原級に留めおかれ、また 1 科目でも 60 点以下 (四等と称した) の教科があると父兄が呼ばれたものであり、私達はなんとしてもものんびりとは出来ずに努力し

たと思う。

その他例年の行事としては春は天明山の全校遠足、夏休には 1、2 年生は原釜で 1 週間の水泳訓練などがあった。

上級学校の希望も時世を反映して、海兵、陸士、高校が憧れの的であり、私たちの学年からも海兵 1、陸士 3、高校 2 が進学した。その他の上級学校にも多数進学した。

当時の恩師の方々も非常に優秀が人ばかりで、熱情あふれる教育をしてくださった。今にして思いを馳せ、感謝の気持で一杯です。

現在私も中学校の教師をしており、生徒の指導に当たっているが、教育の困難さが身にしみてならなく、当時の恩師の御苦勞がとくと分ります。生存恩師の御健康と御多幸を又母校の益々の御隆盛を心から祈念します。

(※1) 創立 80 周年記念誌 『相中相高八十年』 (1978 (昭和 53) 年 5 月 7 日発行) 第四部「思い出の記」より。

(※2) 上真野出身。昭和 14 (1939) 年卒。陸士。